

Ⅲ 前期計画の評価

※前期計画策定当時に合併直後の状況であったため、旧市町ごとの独自の調査、指数によって目標が設定されており、今回の評価にあたって一部の目標については正確な検証が行えない箇所があります。

※各領域ごとに掲載しております、「評価目標に対する数値的比較」の「達成状況」の記号についてはそれぞれ、◎：目標達成、○：策定時より改善、－：ほぼ変化なし、×：策定時より悪化を表しています。

※評価項目欄にある（ ）の数値は、策定時に設定した目標値です。

1 心の健康

(1) 評価目標に対する数値的比較

評価項目	前期計画策定時の状況	平成 23 年度現状	達成状況
「健康をよりよくすることについて家族はあまり協力してくれない」という人の減少	20 歳代男性 37.5% (旧綾歌町) 29.2% (旧飯山町) 40 歳代女性 37.5% (旧綾歌町) 46.9% (旧飯山町)	20 歳代男性 27.4% 40 歳代女性 29.0%	○
1 日に 1 回以上家族と一緒に食事をする人の増加	15～19 歳 70.7% 20～29 歳 71.4% 70 歳代以上 76.2%	20 歳代 55.0% 70 歳代以上 69.4%	×
地域活動に参加する人の増加	自治会活動 43.3% (旧丸亀市) サークル等 19.9% (旧丸亀市) 市民活動 25.3% (旧丸亀市)	コミュニティ・ボランティア活動への参加 17.5%	×
自殺する人が増えない	自殺者数 25 人 (平成 17 年度)	自殺者数 21 人 (平成 21 年度)	◎
「普段心の健康状態について、健康でない、あまり健康でないと感じている」人の減少	男性 14.8% (旧綾歌町) 14.1% (旧飯山町) 女性 12.2% (旧綾歌町) 16.0% (旧飯山町)	過去 1 年間の健康状態について「健康でない」と「あまり健康でない」の合計値 男性 17.6% 女性 18.5%	×
「よく眠れる」人の割合 (男性 65%、女性 55%)	男性 55.5% (旧丸亀市) 女性 48.0% (旧丸亀市)	「睡眠で疲れがとれている」 男性 69.5% 女性 66.9%	○
40 歳代の「この 1 ヶ月にストレスを感じたことがある」人の減少	男性 45.8% (旧丸亀市) 女性 55.3% (旧丸亀市)	「毎日感じる」と「時々感じる」の合計値 男性 72.5% 女性 72.6%	×



評価項目	前期計画策定時の状況	平成 23 年度現状	達成状況
「イライラすることはあるが解決方法を持っている」人の割合（男性 60%、女性 70%）	男性 46.5%（旧綾歌町） 女性 56.7%（旧綾歌町）	男性 18.5% 女性 26.1%	×
「身の回りに一緒にいてほっとする人がいない、もしくはあまりいない」人の減少	男性 44.4%（旧綾歌町） 女性 36.5%（旧綾歌町）	「身の回りに一緒にいてほっとする人がいない」 男性 13.5% 女性 9.6%	○
「生きがいを持っている」人の割合（40 歳代男性 70%、20 歳代女性 70%）	男性 72.7%（旧綾歌町） 女性 76.7%（旧綾歌町） 40 歳代男性 59.1%（旧綾歌町） 20 歳代女性 62.9%（旧綾歌町）	男性 70.8% 女性 66.1% 40 歳代男性 77.1% 20 歳代女性 70.3%	○
「趣味を持っている」人の割合（男性 75%、女性 75%）	男性 54.5%（旧丸亀市） 73.2%（旧綾歌町） 女性 54.8%（旧丸亀市） 73.3%（旧綾歌町）	男性 73.7% 女性 61.6%	—
「自分の人生に目標を持ち、その実現のために日々努力することを心がけている」人の割合（男性 25%、女性 30%）	男性 18.1%（旧飯山町） 女性 22.7%（旧飯山町）	男性 56.4% 女性 56.7%	◎

I

II

III

IV

V

VI

VII



<傾向>

「健康に関する家族からの理解」や「人生における目標を持ちその実現に対して努力する」など意識的な面での目標については大幅に改善できています。

しかしながら「地域活動への参加」や「イライラの解消法」など、実行面に関する数値が下がる傾向にあり、計画のステップとしては意識づくりの段階から実行の段階へ移行しつつあることが伺えます。

また、「家族との食事」や「40 歳代のストレス」では年齢における数値の変化も顕著に出てきており、それぞれの取り組みにおいて、対象者をより具体化する必要があるものと思われます。

(2) 評価目標に対する数値的目標以外の状況

評価項目	地域や職域における相談窓口を知られ、活用されている
平成 23 年度現状	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なところの相談窓口を増やしてほしい（中間評価アンケートより） ・気軽に利用できるような相談窓口にしてほしい（中間評価アンケートより）

評価項目	地域の活動について情報が容易に得られる
平成 23 年度現状	<ul style="list-style-type: none"> ・広報をあまり読まないのもそれ以外の方法も検討してほしい（中間評価アンケートより） ・チラシやパンフレットなどがあれば読む（中間評価アンケートより） ・「声かけ」による周知が最も効果的である（市民グループヒアリング調査より）

<傾向>

相談窓口については、より身近に気軽に利用できる環境の整備が求められております。

また、地域活動の周知については、引き続き取り組みを継続すると共に、新たなツールの活用や「声かけ」による効果の拡大などが必要です。



(3) アンケート・ヒアリング調査から見る丸亀市の現状について

<アンケート調査から見る傾向>

- ・ボランティア活動への参加は 40 歳以上の人を中心となっている
- ・若年層ほど休養がとれていない傾向にある
- ・70 歳代以上の人では「人生の目標について努力する」が男女ともに少ない
- ・悩みを相談する相手・場所がない人が 1 割程度おり、男性は 50 歳代が多い
- ・男性 40 歳代、女性 20 歳代でストレスを感じる人が多く、その理由は仕事や人間関係が多い
- ・自分は価値のない人間だと感じる人が 1 割程度おり、男女ともに 20 歳代が多い

<ヒアリング調査から見る傾向>

- ・人との交流を通して、ストレスの解消や不安を解消することができる
- ・仕事で忙しく家族や友人とのコミュニケーションや地域の活動などに参加する時間的な余裕がない
- ・地域のなかで孤立している人や一人暮らしの高齢者などに対し、見守り等関わりが重要
- ・人間関係をつくるために挨拶が重要
- ・同じ悩みを持つ人同士の交流の場が必要
- ・核家族化等で身近なところに気軽に相談できる人がいない

(4) 前期計画における小目標の評価と後期計画における見直しについて

小目標①	家族でコミュニケーションがとれる
平成 23 年度の 評価	健康に関する理解と協力については大幅な改善が見られますが、家族と食事をする機会は減っているものと思われます。 また、市民グループヒアリング調査では「閉じこもり・ひきこもり」や「一人暮らしの高齢者」についても取り組むべき課題としてあがっており、今後は「家族」のみでなく「地域」全体での交流を図るよう取り組むべきものと思われます。
後期計画の 方向性	「地域の人や友達と交流がある」の取り組みと連携し、新たに「家族や地域の人とのつながりを大切にする」として取り組みを行います。

小目標②	地域の人や友達と交流がある
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケート、市民グループヒアリング調査共に「地域」との交流の少なさが課題としてあがっております。とりわけコミュニティやボランティア活動への参加率の上昇や若い世代の積極的な参画などについて取り組みが求められております。
後期計画の 方向性	「家族でコミュニケーションがとれる」の取り組みと連携し、新たに「家族や地域の人とのつながりを大切にする」として取り組みを行います。

小目標③	心身の健康が保てる
平成 23 年度の 評価	睡眠の状況についてはやや改善しているように思われます。しかしながら、市民グループヒアリング調査では「閉じこもり・ひきこもり」や「一人暮らしの高齢者」についても取り組むべき課題としてあがっており、引き続き取り組みの効果を高めることが必要です。 また、幼少期や学童期を意識した取り組みを行うことも今後必要と思われます。
後期計画の 方向性	幅広い世代の方へ取り組みを拡大すべく、新たに「心の豊かさを育む」として取り組みを行います。

小目標④	ストレスに気づき、ストレスと上手につきあう
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケート、市民グループヒアリング調査共に、働く世代のストレスについて課題があがっております。特に 40 歳代の「この 1 ヶ月にストレスを感じたことがある」では前期計画時よりも状況が悪化しており、今後の取り組みをより強化して行く必要があります。
後期計画の 方向性	引き続き「ストレスに気づき、ストレスと上手につきあう」として取り組みの強化を図ります。



小目標⑤	困った時に相談できる人や場所がある
平成 23 年度の 評価	アンケート調査から見られる結果では前期計画時に比べ改善しているものと思われませんが、個別の意見として、より身近に相談できる環境を求める声もあがっています。引き続き取り組みの拡充を図ることが必要と思われま
後期計画の 方向性	引き続き「困った時に相談できる人や場所がある」として取り組みの強化を図ります。

小目標⑥	趣味を持つ
平成 23 年度の 評価	趣味によってストレスを解消するだけでなく、趣味を通して仲間づくりにも役立ち、「心の健康」における影響は強いと思われま
後期計画の 方向性	「仕事や役割を持ち続ける」の取り組みと連携し、新たに「生きがいを持つ」として取り組みを行います。

小目標⑦	仕事や役割を持ち続ける
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケートの結果からは状況の好転が見取れま
後期計画の 方向性	「趣味を持つ」の取り組みと連携し、新たに「生きがいを持つ」として取り組みを行います。



2 運動

(1) 評価目標に対する数値的比較

評価項目	前期計画策定時の状況	平成 23 年度現状	達成状況
運動実施率の増加「週 1～2 回以上定期的に運動をする」(40%)	男性 34.6% 女性 33.6%	「30 分以上の運動を週 1～2 回以上 1 年以上続けている」 男性 33.7% 女性 24.1%	×

<傾向>

運動実施率の増加「週 1～2 回以上定期的に運動をする」を目標に設定していましたが、前期計画策定時より男女ともに下がる結果になりました。特に女性は、数値の低下が大きく、今後は女性への取り組みが課題となると思われます。

(2) 評価目標に対する数値的目標以外の状況

評価項目	運動の必要性を知っている人の増加
平成 23 年度現状	・運動不足と思っている人は、男女とも 40 歳代が最も高く、男性 82.3%、女性 91.1%である。運動不足と思っていることは、運動の必要性も感じているものと思われる（中間評価アンケートより）

評価項目	生活の中で意識して体を動かす人の増加
平成 23 年度現状	・「健康の維持・増進のため意識的に体を動かしている」人は「いつもしている」、「時々している」をあわせて 62.3%（中間評価アンケートより） ・各種講座や啓発を通して運動を実践している（中間評価アンケートより） ・ウォーキングを実践している人は増えている（市民グループヒアリング調査より）

評価項目	一緒に運動する仲間がいる人の増加
平成 23 年度現状	・「一緒に運動する仲間がいる」34.5%（中間評価アンケートより） ・仲間がいることで運動を継続する活力になる（市民グループヒアリング調査より）



評価項目	一日の歩行数を 1,000 歩増加
平成 23 年度現状	・ 1 日に 10,000 歩以上歩く人は 11.4% (中間評価アンケートより)

評価項目	積極的に外出する高齢者の増加
平成 23 年度現状	・ 50 歳代以降、年齢が上がるにつれて「毎日外出する」頻度は減少しているが、特に 70 歳以降ではその傾向が強く見られる (中間評価アンケートより) ・ 男女ともに 60 歳代以上は運動習慣の定着が他の年代よりも高い (中間評価アンケートより)

<傾向>

年齢が上がるにつれて「毎日外出する」頻度は減少しているが、特に 70 歳代以降ではその傾向が強く見られます。家に閉じこもり気味の高齢者に対する取り組みが必要と思われます。

60 歳代以上では日頃から意識的に運動をしている人が多く、「週 1～2 回以上定期的に運動をする」運動実施率が他の年代より高い状況がわかりました。

(3) アンケート・ヒアリング調査から見る丸亀市の現状について <アンケート調査から見る傾向>

- ・ 運動不足を感じている人は女性に多く、特に 30 歳代、40 歳代が多い
- ・ 日ごろから意識的に体を動かす人は年齢が上がるほど増える傾向にある
- ・ 一緒に運動する仲間がいる割合は、男女ともに 20 歳代、30 歳代、60 歳代に多い
- ・ 運動に関するイベント等への参加は年齢が上がるほど増加する
- ・ 体を動かす環境条件として「時間的なゆとりがある」が最も多い
- ・ 外出の機会については年齢が上がるほど減少する傾向にあり、特に 70 歳代で低い

<ヒアリング調査から見る傾向>

- ・ 若いうちから運動する習慣を身につけることが大切
- ・ 働く世代は時間的な余裕がない
- ・ 高齢者には健康の維持のためにも運動が不可欠
- ・ 運動を楽しむことが重要
- ・ 身近な運動としてウォーキングを行っている人が多い
- ・ 外で遊ぶ子どもが減った
- ・ 親子で体を動かすことを楽しむことが大切

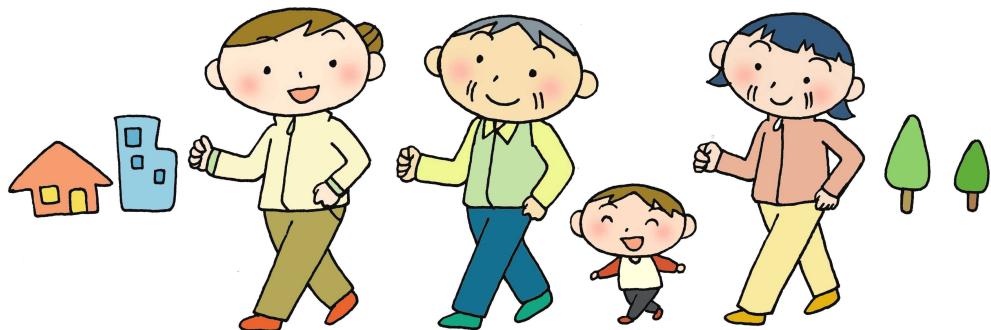


(4) 前期計画における小目標の評価と後期計画における見直しについて

小目標①	運動（体力づくり）の必要性を知る
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケートや市民グループヒアリング調査から、運動の必要性については特に高齢者を中心に浸透しているものと思われます。今後は働く世代やより若い世代について取り組みの強化を図ることが必要です。
後期計画の 方向性	引き続き「運動（体力づくり）の必要性を知る」として取り組みの強化を図ります。

小目標②	自分にあった運動習慣を身につけ日常生活に運動習慣を取り入れる
平成 23 年度の 評価	日常生活における運動習慣については、とりわけウォーキングを実践している人が多いことが中間評価アンケートや市民グループヒアリング調査の結果からわかりました。今後はウォーキングだけでなく、さらに個々のニーズに応じた日常生活に取り入れることのできる運動を紹介し、習慣となるような工夫が必要です。
後期計画の 方向性	引き続き「自分にあった運動習慣を身につけ日常生活に運動習慣を取り入れる」として取り組みの強化を図ります。

小目標③	運動人口を増やす
平成 23 年度の 評価	市民グループヒアリング調査から、外で遊ぶ子どもの数が減った、親子で楽しんで体を動かすことが大切であるという意見が寄せられました。公園などの遊び場の環境整備とともに、新たに運動を楽しむことを第一とした取り組みへ転換を図ります。
後期計画の 方向性	「運動人口を増やす」より「楽しみながら運動ができる」へ変更し取り組みを行います。



I
II
III
IV
V
VI
VII



3 食事

(1) 評価目標に対する数値的比較

評価項目	前期計画策定時の状況	平成 23 年度現状	達成状況
1 日に 1 回以上家族と一緒に食事をする人の増加	15～19 歳 70.7% 20～29 歳 71.4% 70 歳以上 76.2% (県民栄養調査)	20 歳代：55.0% 70 歳以上：69.4%	×
	一人で食べることが多い子ども 小 2 朝食 8.6% 夕食 0.9% 小 5 朝食 17.3% 夕食 3.9% 中 2 朝食 42.3% 夕食 13.8%	一人で食べる人が多い子ども 小 2 朝食 10.0% 夕食 2.1% 小 5 朝食 18.3% 夕食 4.3% 中 2 朝食 40.9% 夕食 13.1%	—
3・3・30運動ということばをきいたことがある(50%以上)	33.0% (県民栄養調査)	35.7%	—
主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている(70%)	66.4% (県民栄養調査)	78.7%	◎
朝食をほぼ毎日食べる人の割合(全年齢で 85%以上)	朝食摂取率 15～19 歳 70.7% 20～29 歳 61.9% (県民栄養調査)	「朝食をほとんど毎日食べる」 20～29 歳 56.3%	×
	「朝食を毎日食べる」 小学 2 年生 88.8% 小学 5 年生 82.2% 中学 2 年生 74.8%	「朝食を毎日食べる」 小学 2 年生 91.5% 小学 5 年生 86.9% 中学 2 年生 83.3%	○
適正体重を維持する人の増加	男性 66.7% (旧丸亀市) 女性 68.2% (旧丸亀市)	BMI 「18.5 以上 25 未満」 男性 69.0% 女性 65.2%	—
旬の野菜を食べようとする人の増加	「している」57.0% 「時々」41.0%	「している」54.9% 「時々している」36.2%	×



<傾向>

「主食・主菜・副菜をそろえて食べる」や「朝食を毎日食べる」などでは、ほぼ前期計画時の状況と変わらず意識は高い結果となっておりますが、一方で若年層における意識の低さが感じられます。

また、「適正体重の維持について」は市全体で見れば前期計画策定時程度の状況ですが、20歳代女性に「やせ気味」の人が多く、40歳代と60歳代の男性に「肥満」の人が多い傾向がみられます。性別、世代別を意識した「食事」の推進が必要と思われるます。

「3・3・30運動の周知」に関しては、引き続き啓発活動の推進が必要です。

(2) 評価目標に対する数値的目標以外の状況

評価項目	食育のネットワークができ、連携をとれる体制がある
平成23年度現状	「丸亀市食育推進計画」において、市内の各関連機関とのネットワークを構築し、一体的な食育の推進を図ります。

<傾向>

平成24年度から健康増進計画に加え、丸亀市食育推進計画を策定いたしました。食育推進計画において、食育ネットワークの構築・強化を図ります。

(3) アンケート・ヒアリング調査から見る丸亀市の現状について

<アンケート調査から見る傾向>

- ・ 食事の習慣やバランスについては年齢が上がるほど良くなる傾向にある
- ・ 「主食・主菜・副菜」の摂取状況については年齢が上がるほど良くなる傾向にある
- ・ 「3・3・30運動」の内容も含めて知っている人は1割程度
- ・ 若年層で野菜を積極的に食べる人が減少する傾向にある
- ・ 「早食いだと思う」と答えた人は30~50歳代に多い

<ヒアリング調査から見る傾向>

- ・ 家族揃って食事を食べる
- ・ 働く世代は暴飲暴食に気を付ける
- ・ 塩分や濃い味付けに気を付ける
- ・ 地域の産品や郷土料理を知らない
- ・ 若い頃からいろいろな食材にふれ、好き嫌いをなくす
- ・ 無理なダイエットで体調を崩さないよう気を付ける
- ・ 体調の変化に応じた食事をとる
- ・ 朝食の大切さを知る
- ・ 食事を楽しむ
- ・ 香川県の野菜摂取状況が全国的にみて悪い



(4) 前期計画における小目標の評価と後期計画における見直しについて

小目標①	バランスのよい食事を家族揃って食べる
平成 23 年度の 評価	バランスを意識した食事については前期計画時と比べ改善してきているものの、年齢によるばらつきが見られます。 また、栄養のみならず楽しく食事をとることでその効果を高める取り組みが求められています。
後期計画の 方向性	食事のバランスについては「バランスの良い食事をする」として取り組み、家族揃って食べることについては新たに「家族や仲間と楽しく食べる」に変更し取り組みを行います。

小目標②	3・3・30運動をすすめる
平成 23 年度の 評価	「3・3・30運動」の認知度については、ほぼ前期から変化なく横ばいの状態と言えます。今後も啓発等に取り組みつつ、バランスのよい食事をとることと、悪化傾向の野菜摂取状況について、取り組みを強化して行く必要があると思われます。
後期計画の 方向性	新たに「バランスの良い食事をする」、「毎食野菜を食べる」として「3・3・30運動」を推進する。

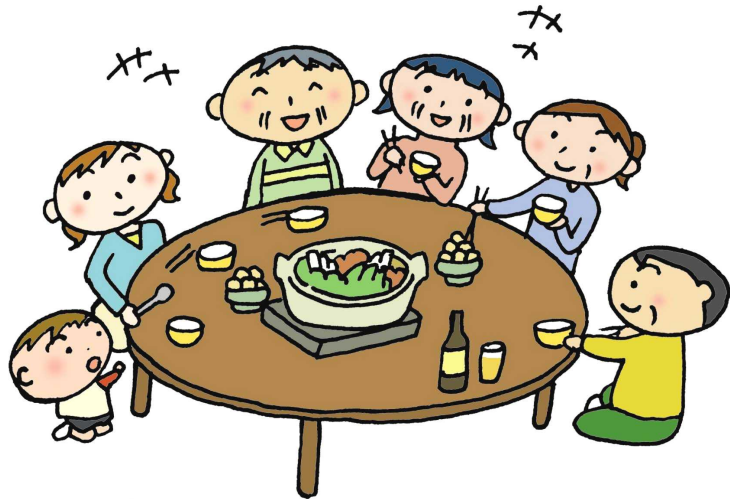
小目標③	朝食をきちんと食べる
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケートからみる結果からは、朝食について幅広い年齢層において改善が見られるものの、20 歳代で極端に朝食をとる数値が下がっていることなどから、それぞれのライフステージを意識した取り組みの推進が必要です。
後期計画の 方向性	引き続き「朝食をきちんと食べる」として取り組みの強化を図ります。

小目標④	生活習慣病予防の食事をする（塩分を控える・腹八分）
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケートから多くの人が適正体重を維持していることが伺えます。しかし、30～50 歳代に早食いの人が多いこと、市民グループヒアリング調査からは外食による暴飲暴食・偏食の増加など様々な課題があげられ、今後はより細やかな取り組みを行っていく必要があります。
後期計画の 方向性	「生活習慣病予防の食事をする（油分・塩分を控える・よく噛んでゆっくり食べる）」へ一部修正し取り組みを行います。



小目標⑤	地産地消をすすめる
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケートや市民グループヒアリング調査から、産直市の開催場所の増加や郷土料理や産品を知る機会の提供を求める意見が上がっております。 引き続き取り組みの拡充を図る必要があります。
後期計画の 方向性	引き続き「地産地消をすすめる」として取り組みの強化を図ります。

小目標⑥	食育を推進する
平成 23 年度の 評価	丸亀市における、食育の推進に際して、より各分野が連携して一体的に推進を図る必要があります。
後期計画の 方向性	「丸亀市食育推進計画」として新たに計画を策定し、その計画中において推進を図ります。



I

II

III

IV

V

VI

VII



4 健康管理

(1) 評価目標に対する数値的比較

評価項目	前期計画策定時の状況	平成 23 年度現状	達成状況
特定健康診査受診率	37.2% (平成 17 年度基本健康診査)	34.0% (平成 22 年度特定健康診査)	×
がん検診受診率	(平成 17 年度)	(平成 22 年度)	
胃がん 25%	胃がん 13.9%	胃がん 11.9%	×
肺がん 35%	肺がん 24.1%	肺がん 27.6%	○
大腸がん 35%	大腸がん 26.2%	大腸がん 24.1%	×
前立腺がん 35%	前立腺がん 25.6%	前立腺がん 28.1%	○
子宮がん 25%	子宮がん 12.7%	子宮がん 23.2%	○
乳がん 25%	乳がん 11.8%	乳がん 23.1%	○
歯科健診受診率 (15%)	10.6% (平成 17 年度)	12.6% (平成 22 年度)	○
健診の利用意向 (50%以上)	「健診を毎年受ける人」 30.3% (旧丸亀市)	「ほぼ毎年受けようと思う」 45.0%	○
歯周疾患症状がある人の割合の減少	何らかの症状がある人 33.2% (旧丸亀市)	「歯や口の状態に不自由や苦痛を感じる」7.8% 「歯や口の状態にやや不満だが日常生活に困らない」63.0%	×
	「歯みがきの習慣のない人」 男性 9.3% (旧丸亀市)	「歯みがきの習慣のない人」 男性 1.9%	○
健康づくり教室の参加者の増加 (成人集団健康教育参加者数)	6,588 人 (平成 18 年度)	27,634 人 (平成 22 年度)	○
喫煙率の減少 (男性 30%、女性 5%)	男性 52.3% (旧丸亀市) 56.9% (旧綾歌町) 45.6% (旧飯山町) 女性 15.6% (旧丸亀市) 12.9% (旧綾歌町) 6.2% (旧飯山町)	男性 29.1% 女性 7.2%	○
若い世代の喫煙率の減少	「喫煙はしない」 20 歳代男性 39.1% (旧綾歌町) 20 歳代男性 56.0% (旧飯山町) 20 歳代女性 78.4% (旧綾歌町) 20 歳代女性 85.3% (旧飯山町)	「喫煙はしない」 20 歳代男性 44.4% 20 歳代女性 80.6%	○



<傾向>

前期計画策定時の状況と比較すると、子宮がん検診、乳がん検診受診率については増加が見られていますが、ほとんどの検診受診率はほぼ変化がない状態です。

喫煙者については、依然として20歳代男女に多く、今後は若い世代を意識した、健康増進の意識高揚に努める必要があります。

(2) 評価目標に対する数値的目標以外の状況

評価項目	よい生活習慣を身につけた人の増加
平成23年度現状	<ul style="list-style-type: none"> ・「BMI18.5以上25未満」66.4%（中間評価アンケートより） ・「たばこを以前は吸っていたがやめた人」17.5%（中間評価アンケートより） ・「健康について普段から意識している」79.6%（中間評価アンケートより）

<傾向>

普段から健康を意識している人が8割程度おられ、適正体重を維持している人も6割以上おられます。喫煙をやめた人も2割近くおられますが、その理由として健康面以外に経済的理由をあげられる人が多くいました。

今後は良い生活習慣がもたらす、健康のメリットを説くことで、健康増進を促していきます。

(3) アンケート・ヒアリング調査から見る丸亀市の現状について

<アンケート調査から見る傾向>

- ・ 健診の種類にもよるが、各種がん検診、歯科健診の受診率は低い傾向にある
- ・ 今後の健診の受診意向は年齢が下がるほど低くなる傾向がある
- ・ 歯をみがく習慣がない人や歯に不満を感じている人が多い
- ・ 自分の健康について「健康」と思う割合は若い世代ほど高くなる傾向がある
- ・ 健康をより良くしようという意識とそのための知識については年齢が上がるほど割合が高くなっている
- ・ 喫煙率については男女ともに減少傾向にあるが、依然として男性の喫煙率が高い



<ヒアリング調査から見る傾向>

- ・働く世代は職場での健診を受ける
- ・若い人ほど若さに任せて健康管理を疎かにしがちである
- ・どのような健診があるのか正しく知らない人が多い
- ・子どもの発育や発達に不安をもつ親が増えてきている

(4) 前期計画における小目標の評価と後期計画における見直しについて

小目標①	早期発見・早期治療のために、定期的に健診を受診する
平成23年度の 評価	市民調査アンケートから健康に関する意識は前期計画時と比べて改善されており、それに伴い健診に対する受診意向なども向上しております。引き続き取り組みの強化を図っていくことが必要です。
後期計画の 方向性	自分自身だけでなく、家族の健康に配慮していただくため「健康に関心を持ち、必要な健診を受け自分や家族の健康状態を知る」へ変更し取り組みを行います。

小目標②	自分自身の健康状態を知る
平成23年度の 評価	市民調査アンケートから健康に関する意識は前期計画時と比べて改善されており、それに伴い健診に対する受診意向なども向上しております。引き続き取り組みの強化を図っていくことが必要です。
後期計画の 方向性	自分自身だけでなく、家族の健康に配慮していただくため「健康に関心を持ち、必要な健診を受け自分や家族の健康状態を知る」へ変更し取り組みを行います。

小目標③	生活習慣の見直しをする（食事・運動・休養・睡眠・歯・アルコール・禁煙）
平成23年度の 評価	全体的に改善が進んでいますが、継続した取り組みが必要な状況です。 また子どもの時からの意識した取り組みを行うことも今後必要とされます。
後期計画の 方向性	幅広い年齢層を意識して「よい生活習慣を身につける（食事・運動・休養・睡眠・歯・アルコール・たばこ）」へ変更し取り組みを行います。

小目標④	親が子どものよい手本になる
平成23年度の 評価	全体的に改善が進んでいますが、継続した取り組みが必要な状況です。 また子どもの時からの意識した取り組みを行うことも今後必要とされます。
後期計画の 方向性	幅広い年齢層を意識して「よい生活習慣を身につける（食事・運動・休養・睡眠・歯・アルコール・たばこ）」へ変更し取り組みを行います。



5 地域・環境

(1) 評価目標に対する数値的比較

評価項目	前期計画策定時の状況	平成 23 年度現状	達成状況
不慮の事故が減少する 標準化死亡比 (SMR) の「不慮の事故」による死亡	(SMR H11-H15) 男性 141.5 女性 140.0	(SMR H15-H19) 男性 127.7 女性 102.1	○
「公園緑地が整備され、よく維持管理されている」と感じる市民の割合の増加	51%	45.5%	×
コミュニティセンターの年間利用者数が増える	(平成 17 年度) 212,000 人	(平成 22 年度) 266,063 人	○

<傾向>

前期計画策定時に比べ、「公園緑地が整備され、よく維持管理されている」と感じる市民の割合が、やや下がる結果となりました。市民の交流や運動の拠点となる公園について、環境の整備等を行い、より満足度を高める必要があります。

(2) アンケート・ヒアリング調査から見る丸亀市の現状について <アンケート調査から見る傾向>



- ・「安心・安全のまちづくりへの方策」として環境問題、交通安全に関する意識が高い
- ・環境が健康に与える影響については年齢が高くなるほど関心も高くなる
- ・男女ともに年齢が高くなるほど隣近所との関係が深くなる
- ・歩道や自転車道路、街灯等道路整備の充実が必要
- ・公園や緑地、憩いの場が少ない
- ・高齢になるほど、外出が段々難しくなる

<ヒアリング調査から見る傾向>

- ・高齢者や子どもの交通事故が多い
- ・施設や道路の環境等について地域間に差がある
- ・隣近所であっても、顔も知らない人が増えてきている
- ・子どもを安心して遊ばせられる環境が少ない
- ・世代間交流の機会が減ってきている
- ・インターネット等情報過多で、自分にあった情報の選択が難しい

(3) 前期計画における小目標の評価と後期計画における見直しについて

小目標①	安心・安全に生活できる
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケートや市民グループヒアリング調査では、安心安全に外出するために歩道や街灯など道路整備を整えることや、地域のなかでお互いに声をかけ見守りながら生活することの大切さを訴える声が多くあります。今後は関係する各種機関同士の連携を強めて取り組む必要があります。
後期計画の 方向性	新たに「地域の社会資源を整え、安心安全な生活を送る」へ変更し取り組みを行います。

小目標②	ごみを捨てない
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケートで「環境を美しく保ち、安心・安全なまちづくりのために実践していること」について「川や池などにごみを捨てない」や「不法投棄をしない」などが多くあげられており、引き続き取り組みの強化を図ることが必要と思われる。
後期計画の 方向性	新たに「環境を整え、病気や事故から身を守る」へ変更し取り組みを行います。

小目標③	環境を美しく保つ
平成 23 年度の 評価	中間評価アンケートや市民グループヒアリング調査では、多くの人が「環境が健康に与える影響は大きい」と認識しており、その取り組みとしては行政と市民が協力し合って地域環境を整えていくことを求める声が多く、今後関係する各種機関同士の連携をさらに強める必要があります。
後期計画の 方向性	新たに「環境を整え、病気や事故から身を守る」へ変更し取り組みを行います。

小目標④	交流の場がある
平成 23 年度の 評価	市民グループヒアリング調査で、交流の希薄化を問題視し、住民同士が交流することのできる機会や施設の拡充を求める意見が多くありました。今後の取り組みについてより強化を図る必要があります。
後期計画の 方向性	新たに「地域の社会資源を整え、安心安全な生活を送る」へ変更し取り組みを行います。



6 前期計画と後期計画における小目標の変更点

<前期計画>

<後期計画>

心の健康

- ①家族でコミュニケーションがとれる
- ②地域の人や友達と交流がある
- ③心身の健康が保てる
- ④ストレスに気づき、ストレスと上手につきあう
- ⑤困った時に相談できる人や場所がある
- ⑥趣味を持つ
- ⑦仕事や役割を持ち続ける

- ①家族や地域の人とのつながりを大切にする
- ②心の豊かさを育む
- ③ストレスに気づき、ストレスと上手につきあう
- ④困った時に相談できる人や場所がある
- ⑤生きがいを持つ

運動

- ①運動（体力づくり）の必要性を知る
- ②自分にあった運動習慣を身につけ日常生活に運動習慣を取り入れる
- ③運動人口を増やす

- ①運動（体力づくり）の必要性を知る
- ②自分に合った運動習慣を身につけ日常生活に取り入れる
- ③楽しみながら運動ができる

食事

- ①バランスの良い食事を家族揃って食べる
- ②3・3・30運動をすすめる
(1日3食3つの器で30食品を)
- ③朝食をきちんと食べる
- ④生活習慣病予防の食事をする
(塩分を控える・腹八分)
- ⑤地産地消をすすめる
- ⑥食育を推進する

- ①家族や仲間と楽しく食べる
- ②バランスの良い食事をする
- ③朝食をきちんと食べる
- ④毎食野菜を食べる
- ⑤生活習慣病予防の食事をする
(油分・塩分を控える、よく噛んでゆっくり食べる)
- ⑥地産地消をすすめる

健康管理

- ①早期発見・早期治療のために、定期的に健診を受診する
- ②自分自身の健康状態を知る
- ③生活習慣の見直しをする
(食事・運動・休養・睡眠・歯・アルコール・禁煙)
- ④親が子どもの良い手本になる

- ①健康に関心を持ち、必要な健診を受け自分や家族の健康状態を知る
- ②よい生活習慣を身につける
(食事・運動・休養・睡眠・歯・アルコール・たばこ)

地域・環境

- ①安心・安全に生活できる
- ②ごみを捨てない
- ③環境を美しく保つ
- ④交流の場がある

- ①環境を整え、病気や事故から身を守る
- ②地域での社会資源を整え、安心安全な生活を送る

I

II

III

IV

V

VI

VII

